



「出来れば時間掛けてゆっくり調教するのが一番だけど今はそんな暇ねえからな強引ではあるがこっちの方が確実にもあるし」

「お前女の扱い方が下手糞だなBBAで遊ぶ感覚じゃ未経験の女は感じねえんだよ」

「まずは【感じる】という感覚を体で覚えさせなきゃな」

「おっ、さっそくアプリのお出ましか？」

「ただ運が悪けりや副作用で最小廃人行きで最悪【元の人間】に戻れねえというバカげたりリスクがあるけどなw」

「アプリが凄いののは分かるけどリスクが極端過ぎじゃねえ？」

「詳しくは知らねえけど表では禁止された技術で脳に直接働きかけ強制的に行われるとか言ってたしな」

「その力の反動だとしたら強ち極端とも言えねえ」

「おっ、さっそく反応が来たな
どんな設定にしたんだよ」

「いやテキストに押ししたんだけど
【顔面変化】…ってなんだ？」

「顔が変わるってことじゃね？」

「そのまんまじゃねえかw
どう変化するってんだ？」

「俺も知らねえよ」



(なに？顔が…変…
私今この人達になにかされた？)

(顔の奥を弄り回される
ような変な感じがする！
なにこれ怖い怖い怖い！)



(眼が飛び出そう眩暈が
する吐き気もする息が
出来ない痛い痛い痛い！)

(誰か助け)



ああああああ



痛い痛い
いの止め



ああああああ



私の顔が
私の顔が



ああああああ

(もどして…私の顔…
元に…もどして…ッ!)

「おい今の見たかよ
俺人の顔があんなに
変わるの初めて見たぜW」

「この状態で意識を保って
動けるのかよW
さすがプロレスラーだなW」

「いや見たことある方が変だろ
アプリの力が以上だったのW」

(お願い…これ以上
顔の奥弄らないで…)

「ねえお願い…私の顔
元に戻して…?このままじゃ
私おかしくなっちゃう!」

「変に聞こえるかもだけど
これ痛いのに全然痛くないの!
むしろきもち!」





「おい、なに二人で気持ちよく
絶頂して気絶してんだ？」

「まだ始まったばかりだったのw
へばるには早えんだよ」
「や…やべ…て…」

パチ

パチ

ブム

ブム

ビュッ

ブム

ビュッ

「すげえ元の顔に戻ったぞw」

「おお」

「ズ」

「ズズズ」

「何言ってるんだ
始まったばかりだったろ」

「と」

「んじゃあ次は…
こいつにしようつと」

「ボタン」つで顔変わるの
おもしろえw
早く次もやってみろよ」

「？」



(えっ、なに…？
元に戻れた…？
終わったの…か？
さっきのは一体…！)

(えっ、ななっ
なにこれ！
顔が前に出てる？
終わったんじや
ないの？！)

(いや出てるよ
いうより顔の部分
だけ引っ張られてる
みたい…ッ！
私の顔粘土みたいに
伸びてる!!)



「うげ…一体何に
したらあんな風に
変わるんだよ」
「ん？「ナムクジ」だけど
なんか問題でもあんのか？」
「いや別に…なるほど…
「ナムクジ」ね…納得だわ…」

「お前こういう系好みじゃ
なかつたけ？」

おま

「いや好みだけど…
なんていうか、実際に
見ると迫力が…な…」



「こいつ起きたら次は何にする?」「そーだな今度は動物系にしてみるか」

(あれ...?)
私いつのまに
気を失って...
確か男たちに顔を
変えられそれで
気が動転して...
それから...)

「今度は顔だけじゃなくいつそのこと体ごと変えてみるよ」「それじゃ人間じゃなくなるんじゃないか?」

「顔変えられた☆時点でもう人間じゃないつつのWでも面白そうだからそれ採用なW」「ッ!また変なことをしようとしてる?!」

「もうあんなのは嫌!お願いします!もうやめてください!」「うおっなんだこいつ起きてたのか?」

「お願い……ごます」

「他の「ご」なら何でも
いう」と聞きますから
それだけは……
それだけは許して
ください……ッ」

「うおおお【星空こがね】
ちゃんの全裸土下座だど?!
「ごりや写メ取って家宝に
しようっと」

(耐えるこがね
耐えるのよ!!
機嫌を損なうこと
さえしなければ必ず
逃げるチャンスは
来るはず!)

カッヤ

カッヤ

カッヤ

「こがねちゃん今何でも
するって言ったな?」
「は、はい……!」
「んじゃ——」

「俺たちの性奴隷に決定なw
処女いただき〜♡」
「おいてめえずりいぞ〜!
何勝手に突っ込んでんだ!」
「っせ、早い者勝ちだろうが!」

んおっ

んおっ

んおっ

んおっ

んおっ

「こがねちゃん見た目と
違って男勝りな声で
喘ぐんだなw」
「ありや男勝りという
よりゴリラだろw」

(ファーストキス
だったのに……)
処女に続いて
ファーストキスまで
こんな形で……)

(今の痛み……
まさか私、処女
奪われたの?
こんなあっさり?)

(う、嘘?)

んおっ

んおっ

んおっ

んおっ

んおっ

んおっ

「こがねちゃん、君俺たちの性奴隷って言ったよな性奴隷ならひいひい喘ぎながら男を喜ばせるもんだろ？」

（無茶言わないで！私さっきまで処女だったのよ？そう簡単に感じるわけないでしょ！）

（AVの見ず〜）
「こがねちゃん自分が乗り悪いの自覚してる？ずつとこの状態だとまたさつきみたいに変えられちゃうよ」

んんん

んんん

（いやだ）
「それだけは！」
「おいちよつと手放してみろ」

（え、あの人なんで携帯を手に…）
「あ、あのなに…」

「いやこがねちゃんあまりにもノリが悪いからさ〜もつと遊び易くしてやろうとね」
「ああ、俺は知らないw」

「まあさつきみたいなモンにはしないから心配しなくてもいいよ」

「キャツハ★マジヤベネー
頭ぶつとんで〜
真っ白になったら
目の前ピカピカする〜」

「なんだこの変わり様は?!
お前どんな風に弄ったんだよ」
「いや…クソビッチに
なるように設定しただけ
だけど……」

「ほれ〜❤️ほれ〜❤️
なくしてるの?
そのデカチンは
飾りかな〜❤️」

「いえ〜豚以下の
雑魚チンポ〜❤️
ぶひっブヒッ〜❤️」

「ああ今まのクソッソ
濡れてってちよーオナリ
たい気分になっちゃった❤️
ねえお兄さん、アンタの
デカチン私の中に
ぶち込んでくんな〜い?」

「えいっ❤️えいっ❤️
ワンッー❤️ワンッー❤️」

「あゝあ、デカいだけで
全然使えないちよー!
ざ〜ん・チンだったのかな〜❤️
こんなんじゃ家畜小屋の
豚さんの方が数千倍
男らしいかも〜❤️」

「クソソビッチが！
温情かけてやったのに
人を馬鹿にしやがって！
お望み通りチ○ポ
ぶち込んでやるよ！オラッ！！」

「こんなもんなの？
（まだまだ豚さんの方がましね）
「あらあらぶらはんろほうはまひへ
（こんなんじゃあらひん私全然）
「まんろふれひらひひよ」

「あゝーかよ！
もう泣き喚いでも止めずに
死ぬ方がましなぐらいの
イキ地獄を味合わせてやんよ！」
「どうだクソソビッチ！
俺様のデカチンの味は！」

「おほっ
（チ○ポうまつ）
「ひんほうまつ
「ちよーうまつ」

「こいつ人が二生懸命
腰振ってんのに味見しやがる！
とんだビッチになりやがって！！
そんなにザーメン飲みたきゃ
飲ませてやるよ！」





女の子を挿す

もっっっ、
もう挿す挿す

キッタンと挿すの、
女の子は挿すの、
挿すの、挿すの

②TFされる女たち 美遊さんの場合

今日はいい
買い物が出来たな
家に付いたらさっそく
使ってみよう

あら？
足に何か…

パチッ
何の音かしら

これって…
首輪…？

結構高そうな首輪ね…
落とし物かしら？

知らなかったとはいえ
壊してしまったけど
どうしよう…



えっ?!ちよっ…!!
首輪が勝手に
首に巻きついた?!



バキッ
バキッ
ボキッ



バキッ
バキッ
バキッ



もじゃ
もじゃ
もじゃ

さっきから一体
何が起きてるの?!

もしかしてこれって
毛なの?なんで私の
手に毛が生えて…!!

うそ…!!
靴が小さくて履けない?
手もなんだかもじゃ
もじゃしてて…

首輪のせいで頭が
下がらないからよく
見えないけど…
手と足の感覚が
段々鈍くなってる
いるような…



ぶる
ぶる



バキッ
バキッ
バキッ



もじゃ
もじゃ
もじゃ
もじゃ

首輪で下がらなかった
頭が...!下がって...?!

うそ!
これが私の手?!

まるで犬の手
みたいにな
ってる!

おほい

顔が引っ張られて
鼻と口が
伸びていく!

おほい

この姿...
信じられない...
これじゃ本当に...

私今本物の犬に
なってるの?!



私夢でも見て…

あ、やっと
見つけた

うそ、人?!この姿を
人に見られるのは
マズいわ

今はまず逃げてどこか
見つからない場所に
隠れなきゃ!

散歩の途中で
逃げちゃダメ
でしょう?

どれだけ探し
回ったか…

え?散歩の
途中って…
この人なに
言ってるの?

さあ散歩の続き…
しましょうか?

美遊ちゃん♡

えっどうして
私の名前を…



ザウ



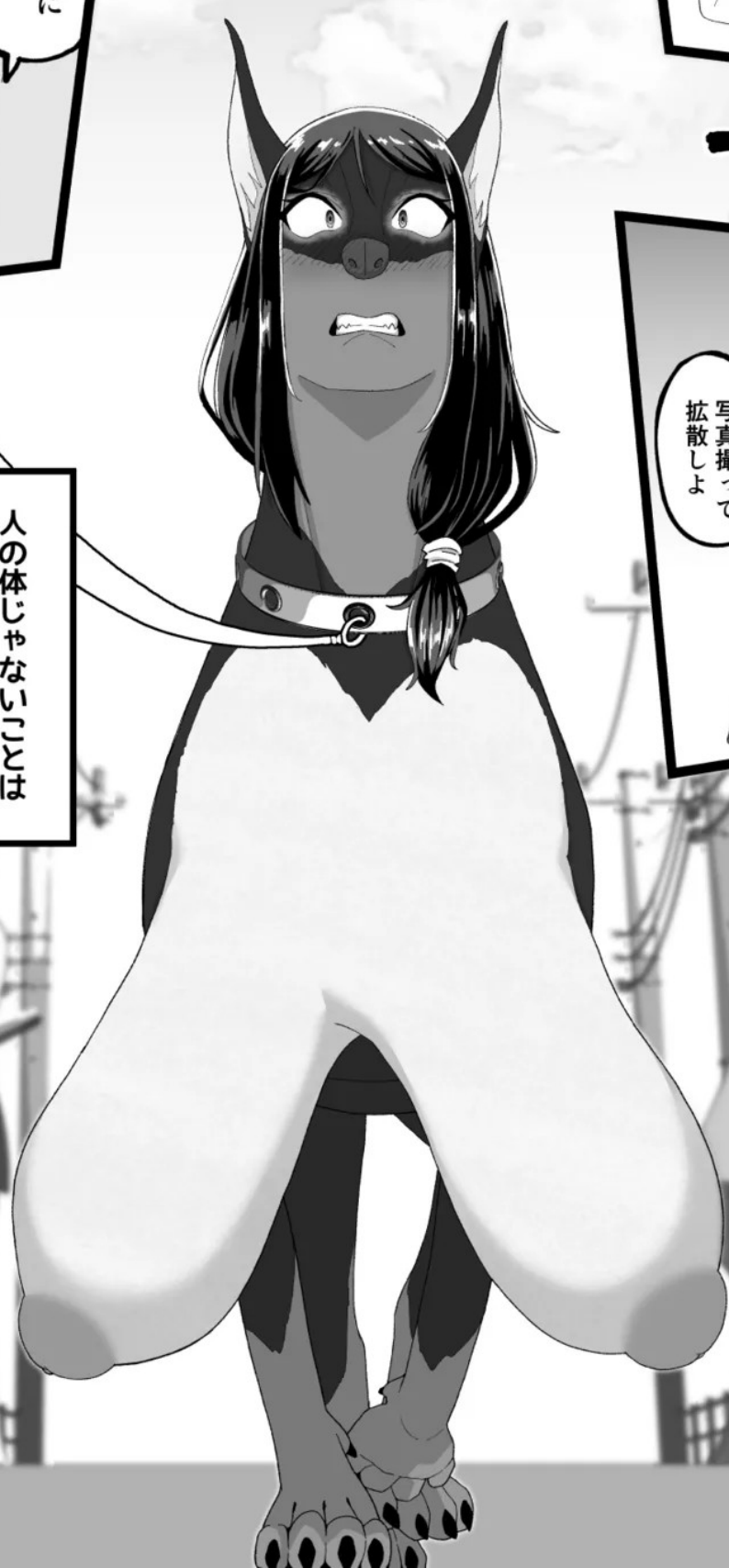
ザウ

ザウ

人の体じゃないことは分かってるけど…

こんな真昼間から…それもこんな人前で堂々と乳房を晒し出して歩くなんて正気の沙汰じゃないわ！

この人一体なに考えてるの？！





あれ？
なんだろう
この気持ち…



ん？

隙を見て逃げ
出さなければ…

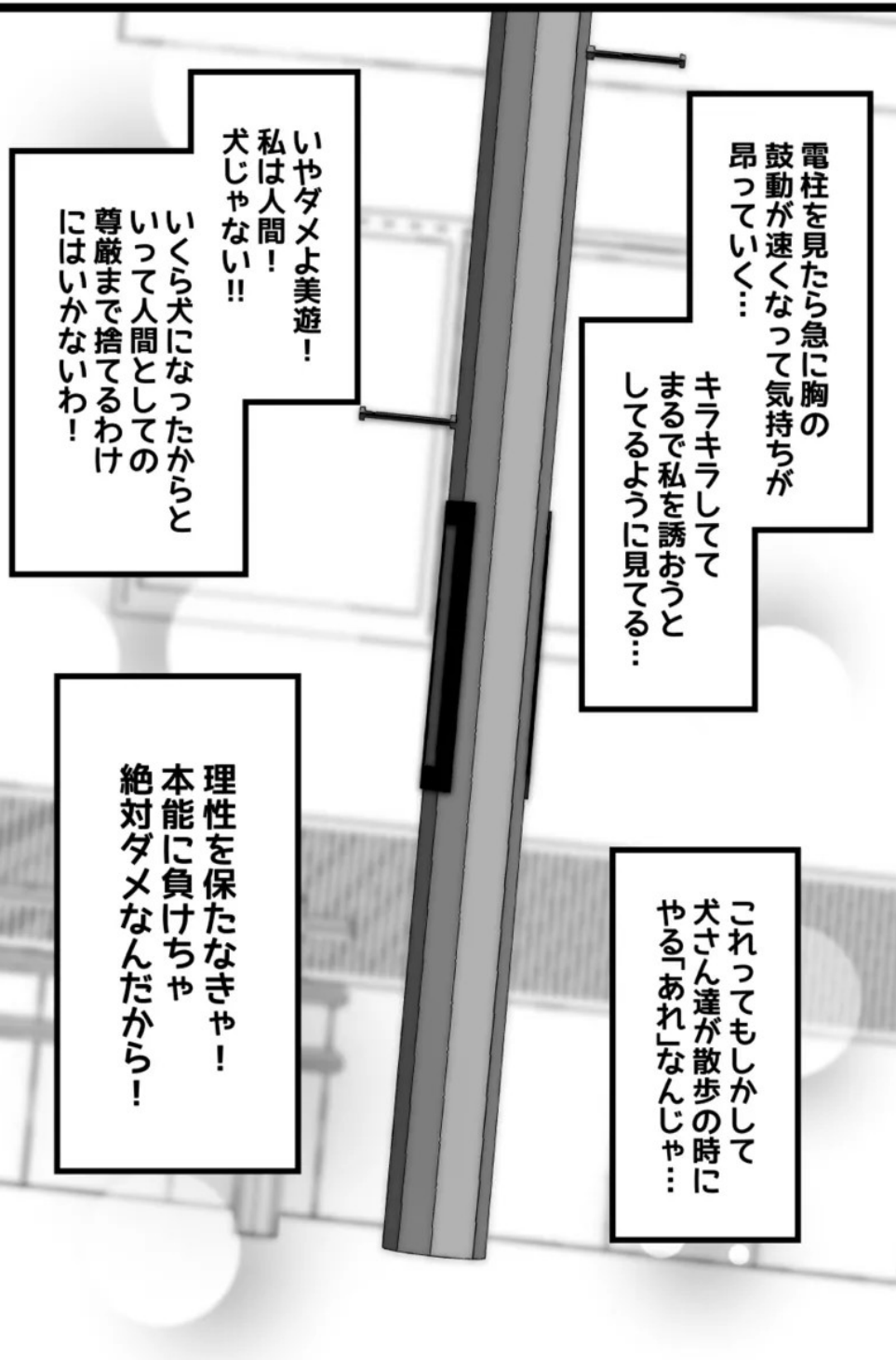


あら？ 縄が
引っ張られてる

どうしたの
美遊ちゃ…



あらあら



電柱を見たら急に胸の
鼓動が速くなって気持ち
昂っていく…

キラキラしてて
まるで私を誘おうと
してるように見える…

これってもしかして
犬さん達が散歩の時に
やる「あれ」なんじゃ…

いやダメよ美遊！
私は人間！
犬じゃない！！

いくら犬になったからと
いって人間としての
尊厳まで捨てるわけ
にはいかないわ！

理性を保たなきゃ！
本能に負けちゃ
絶対ダメなんだから！

あんなに気持ち良さ
そんな顔でマーキング
なんかしちゃって♡

もう少しは粘ると
思ったけどもうすっかり
犬さんになっちゃた
みたいね

これなら調教するまでも
なく次の段階(交尾)に
進められそう♡

はあはあ♡
おしっこ…凄く
気持ち良かったわ♡

老廃物を出した
だけでこの快感
堪らない♡

私人間なのに…
こんなのダメなのに…
へへ♡

まあ…
どうでもいいか

③TFされる女たち アンの場合

もう少し
ゆっくり
歩いたら
どうなのよ!!

このままじゃ
シルヴァンが
死んじゃうわ
~~~~~!!

見つけた♡



ふふっこいつらが  
イロンシッドが  
殺し損ねた例の  
連中ね

イロンシッドの  
尻ぬぐいみたいで  
気は乗らないけど…

我らの王のため  
やむを得ないわね

イロンシッドのように  
「野蛮」じゃなく「平和」  
的にやってやるわ

手始めに仲間と  
離れたこの子から…  
確かこの子は

真実と嘘を見破る  
力を持つてるって  
言ってたわね

こういう厄介な  
力は弱い内に排除  
しておかないと  
後々面倒になる





さあ我が魔力で  
新しく生まれ  
変わるがいい

# 獣 化

トランス  
スワ  
オ



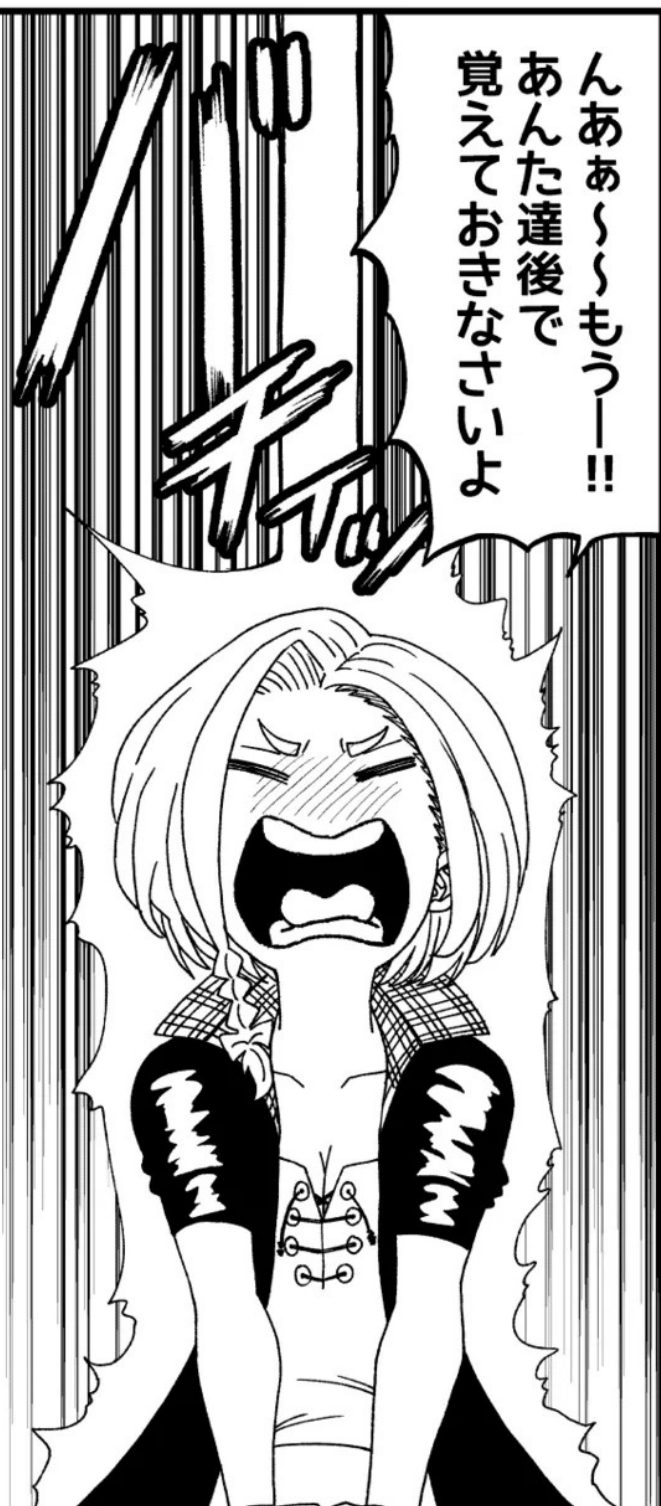
ピッ



グ  
オ  
オ

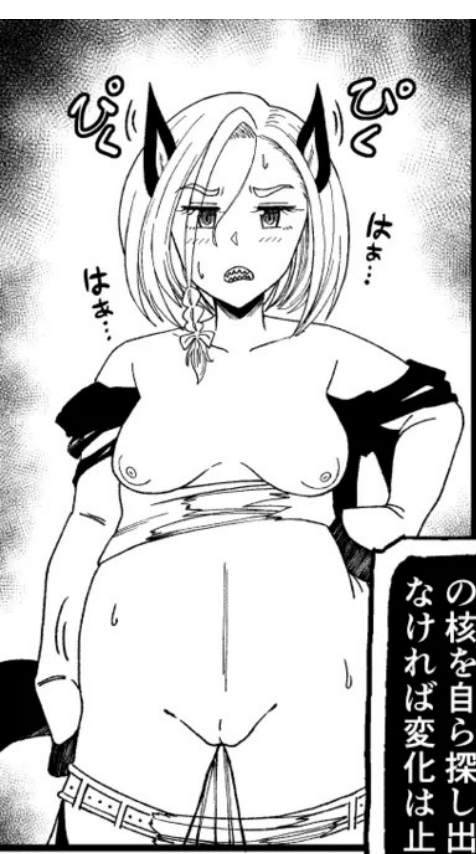
オ  
オ

んああ〜もうー!!  
あんた達後で  
覚えておきなさいよ



キ  
ッ





どんな神経してるのよ

アイツらは暑くないの？

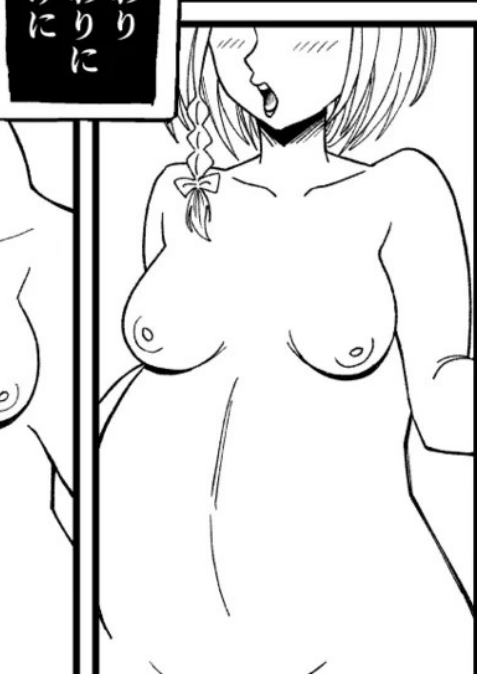
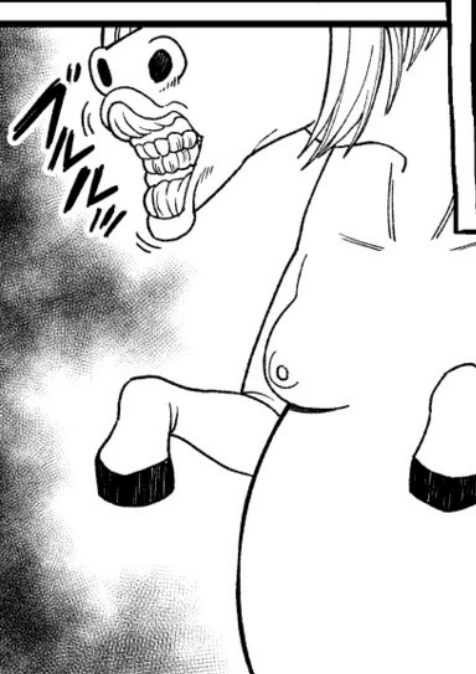
他者によって気付いたとしても体内に隠れている魔力の核を自ら探し出し破壊しなければ変化は止まらない

この魔力の恐ろしい所は魔法に掛かった対象が自ら変化に気付けない所



対象に対する認識が変化したものと新しく書きさされる

そうやって変わり続け変化が終わりに近づくと仕上げる



ねえシルヴァン  
あなたも  
そう思わない？



はあ♥もうあんな  
連中放つといてさ

二人きりでどこか  
物陰にでも隠れて  
涼しくなるまで

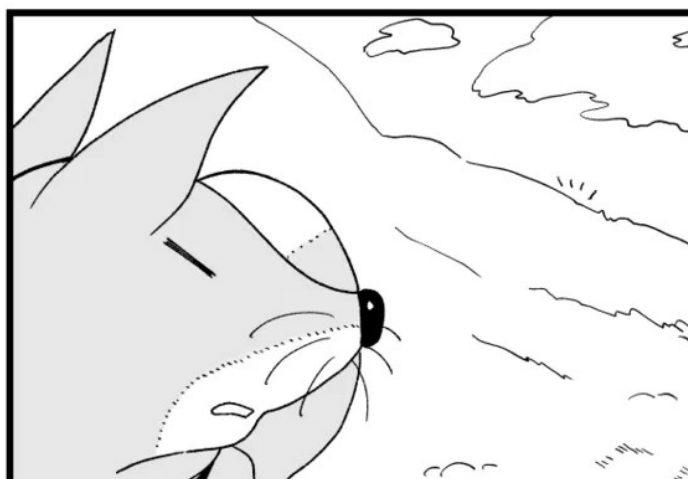
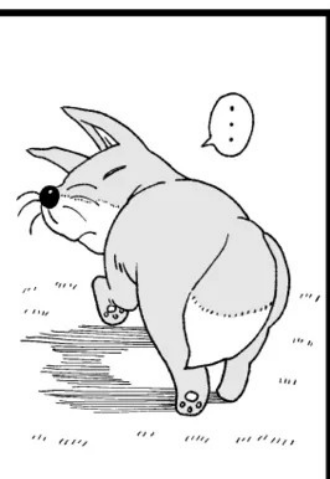
きゅ・う・けい♥  
しない？

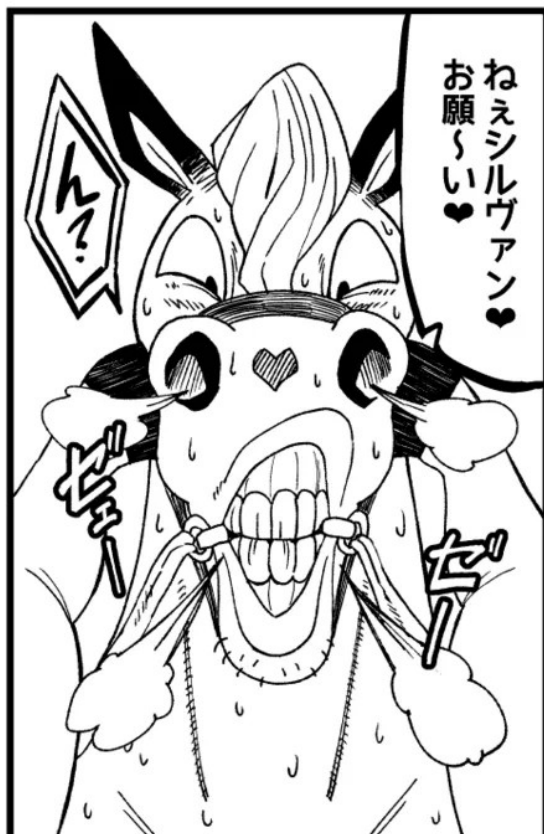
ふん...

さあ四騎士の仲間  
なんてつまらない  
ものは止めて

生まれ変わった  
その姿で新しい  
人生を楽しみなさい





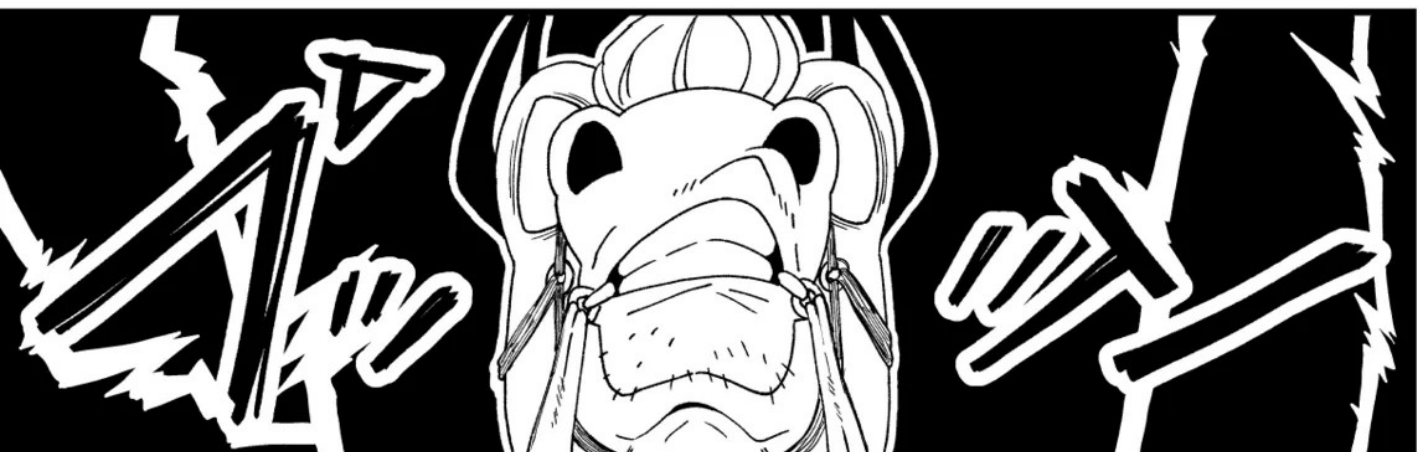


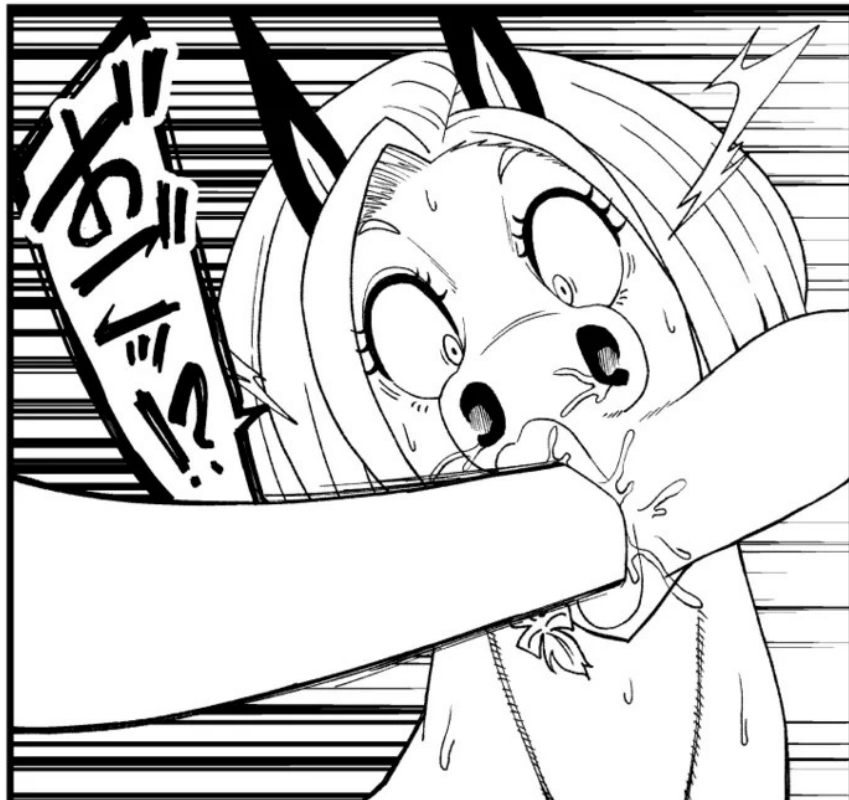
ねえシルヴァン♡  
お願い♡



いやシルヴァンとは  
子供の頃からの  
友達だもの  
本気で向き合えば  
きっと私の声も  
届くはずよ!!!

マズいツツ子  
興奮し過ぎて  
私の声が聞こえて  
ないツツ!!!









変な味と匂い…  
馬のザリメシで  
口と喉の中が  
どろっどろで…  
気持ちわーっ—



ま…まっへ…  
シルヴァン…  
私を…  
おいてかないで…

汚っねえ雌馬だな  
まあでも気持ち  
良かったぜお嬢ちゃん  
今度また会うことが  
あったら頼むわ  
じゃあな!

③TFされる女たち：アンの場合END